



2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 愛媛県・西条市 】

学校名【 西条市立橋小学校 】

1 実践テーマ	①・Ⅱ ③・Ⅳ・⑤（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	西条市立橋小学校 全校児童96名 教職員17名 1年17名 2年14名 3年16名 4年22名 5年15名 6年12名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 次の5つのうちから選択し○をつけてください【複数選択可】 ① 教科名（ 体育科、特別活動、総合的な学習の時間など） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ スポーツを「する」ことのすばらしさを体得させ、これからさらに児童がスポーツに親しみ、特に投力の向上を目指すこと ○ オリンピック、パラリンピックとは異なるデフリンピックがあり、それに向けて練習を積むアスリートの努力を知ること
5 取組内容	【事前学習】 〈3～6年生〉オーストリアについて知ろう。 ウィーン日本人学校に勤務経験のある白石宏之先生（今治市立菊間小学校）を招待し、オーストリアの様子やドイツ語の簡単な挨拶を教えてもらい、クライミングのオーストリア代表選手とスムーズな交流ができるようにした。   〈全校児童を対象に〉佐藤選手について知ろう。 2009年夏季デフリンピック男子やり投げで銀メダルを獲得した佐藤選手のインタビューの映像を見せ、デフリンピックの存在や、佐藤選手の様子を知らせ、興味をもって講演を聞いたり、実技をしたりできるようにする。

〈4年生〉パラリンピックについて知ろう。

総合的な学習の時間を使って、パラリンピックについての学習を深めた。パラリンピックにある種目について調べ学習（①どのような種目があるか、②どのような歴史があるか、③どのようなサポートがあって競技が行われているのか、）を行ったり、実際に体験（ボッチャ、ゴールボール）をしたりして関心を高めた。



その中で、デフリンピックについても触れ、オリンピック・パラリンピックとは別に世界大会が行われていることを知った。

【実践】

①講演（40分）

「陸上と出会って」佐藤将光選手（松山聾学校教諭）

「佐藤選手の指導を通して」鷺見英治先生（内子高等学校教諭）



②模範試技と実技（投運動）指導（60分）

やり投げを模範試技として実演した。児童の目の前で、やりが飛んでいき、迫力ある様子が伝わってきた。その後、全員でジャベボール（全国小学生陸上競技交流大会で使用）や柔らかいボールを投げて、投運動の楽しさを知ることができた。



③給食を一緒に食べて交流（25分）

6年生12名と給食の時間、交流を図った。アスリートを身近に感じることができるよう、給食を食べ、お互いに話をした。



【事後学習】

発達段階においての指導を継続していく。自分たちの住んでいる西条市には、クライミングのオーストリア代表選手が来ることになっているなど、オリンピックが身近なものであるということをさらに伝えていく。

また、4月に行われる東京2020オリンピック聖火リレーが石鎚スキー場のピクニック園地で行われることを伝え、いよいよ大会が近づいていることを肌で感じさせていきたい。

6 主な成果

【事前学習について】

○ オーストリアに3年間滞在した先生の話ということで、どの児童もとても興味をもって話を聞くことができた。実際に住んでいないと分からないような話も多くあり、オーストリアに興味をもつ児童が増えた。

○ 佐藤選手がインタビューをしている様子を見ることによって、講演を実際に聞く際も集中して聞くことにつながった。なかなか聞き取りにくい言葉もあるが、一生懸命聞こうとする姿勢が伝わってきた。

【総合的な学習の時間等について】

○ パラリンピックについて継続して学習することにより、これまでオリンピックのみ知っていた児童がパラリンピックに興味をもつようになった。種目や歴史について学んでいくうちにデフリンピックの存在も知るようになった。オリンピックからパラリンピック、そしてデフリンピックへと学びが広がっていくことを指導者として体感することができた。

【講演について】

○ 陸上との出会いをテーマに話をしていただいた。デフリンピックの歴史についての話もあり、教職員も含め新たな見地を得ることができた。デフリンピックで行われている種目の紹介があったり、どのようなサポートを得ながら大会を行っているか、スポーツを支える立場になっての話もあったりして、これからスポーツにかかわる上で大切な話を聞くことができた。

【模範試技・実技指導について】

○ 「まずは、やってみよう！」ということをテーマに様々な運動に挑戦することができた。運動遊びから始まり、投運動につながる動きづくりを行った。投げると音が鳴るジャベポールなどを使うことによって、楽しく投げることができた。また動きのいい児童を称揚しながら活動を行ったことで、児童のやる気も高まり、楽しい時間を過ごすことができた。

○ 模範試技は、児童の前で実際にやりを投げてもらい、遠くに飛んでいく様子に、児童の多くが興奮しているようだった。走や跳運動に比べると運動する機会も少なく、模範試技を見る機

	<p>会もない投運動なので、児童にとって貴重な時間になった。 【給食での交流について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6年生は、給食でも交流を行った。競技とは違って児童の身近な内容で話をするのができ、楽しい時間を過ごすことができた。給食後に行われる運動教室にも参加していただき、跳び箱など普段見ることのできない難度の高い技を見ることができ、とても貴重な時間になった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校は、難聴特別支援学級(在籍1名)もあり、集会時には手話をしながら司会を務めたり、学習発表会では全校で手話歌をしたりしている。また、難聴理解のため松山聾学校より先生をお招きしての学習も行っている。 ○ 今回、デフリンピックに出場した佐藤先生を講師に選定したことにより、知名度の低いデフリンピックへの認知が広がったと考えられる。 ○ 事前学習において、パラリンピックについて学ぶ機会を継続的に行い、子どもたちの関心も高まった。また、オーストリアの選手との交流をするために、オーストリアについて学ぶ機会を設定することができ、世界の文化の理解やオリンピック種目への興味関心を高めることにもつながった。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回のオリパラ教育では、昨年からの継続ということもあり、地元にあるスポーツクライミングの施設を活用する方法を探り、オーストリア選手の事前合宿等での交流も視野に計画を立てていた。しかし、海外の選手ということもあり、なかなか連絡調整がうまくいかず、年度内に選手と交流する機会を設定することができなかった。 ○ 事前合宿など県下に多くの選手が来ていることを考えると、その選手との交流を図ることができれば、このオリパラ教育もさらに充実していくのではないだろうか。 ○ さらにネットワークを広め、人材バンク等を作成し、スムーズに連絡調整のできる体制づくりが必要であろう。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西条市には、オリンピック種目の正式種目にもなっているスポーツクライミングの施設があり、オーストリアの選手が来て合宿を行ったり、国内の有名選手が来て大会を行ったりしている。この競技を紹介することで、競技にも関心をもってもらいたいと考えている。また、その中で海外選手との交流などが計画できれば、さらに子どもたちの関心も高まることが予想できるため、西条市のスポーツ健康課と連携を図りながら、オリンピック、パラリンピックへの気運を高めていきたい。